

**第65回社会を明るくする運動
ふれあい町民の集い開催**

平成27年度の「ふれあい町民のつどい」(主催 社明運動津別町推進委員会)が、7月9日、中央公民館で開催されました。運動の推進委員長を務める佐藤多一町長の主催者あいさつに続いて、美幌地区保護司会津別分区長の福井全雅さんが内閣総理大臣メッセージを紹介。「社会を明るくする運動標語コンクール」表彰式では、入賞された皆さんに賞状と記念品が贈られました(最優秀賞作品を11ページに掲載)。

後半は、津別町連合PTAと共催の講演会が行われ、(株)ゆめかな代表取締役・石川尚子さんが、「子どもを伸ばす共有コーチング」親や地域はどうかかわるべきか」をテーマにお話をされました。



**ファイターズ中田選手とスカイプ交流
マスコットのB・Bもやってきた**

7月2日、2015年ファイターズ津別町応援大使の中田翔選手と津別中学校野球部の生徒が、スカイプ(パソコンを使ったテレビ電話)による交流を行いました。生徒たちは緊張しながらも、画面に映る中田選手に「バッティングでミートするコツは？」などの質問をしていました。

また、7月8日にはファイターズのマスコットB・Bが、町の紹介映像『212物語』の撮影に来町。町民と交流を楽しみました。



▲B・Bと記念撮影

▶中田選手に質問する野球部の生徒



**万全の体制で火災に備える
津別消防演習を実施**

平成27年津別消防演習が、7月5日に津別小学校グラウンド等で実施されました。津別消防署から17名、消防団から101名(うち美幌消防団6名)、車両8台が出動して行われた演習では、小隊訓練や消防ポンプ車操作などにきびきびとした動作で取り組み、日ごろの訓練成果を披露しました。演習の間には、津別中学校吹奏楽部の演奏や認定こども園こどもの杜の園児によるミニ消防放水のアトラクションを実施。消防庁舎前の道道では、工場火災発生を想定した模擬火災訓練の一斉放水も行われました。

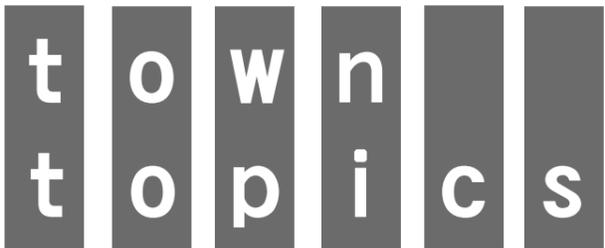
▲本番さながらに行われた模擬火災訓練の様子



▶演習前の整列、敬礼

**近隣1市6町の老人クラブ連合会
網走ブロック研修会を津別で開催**

7月15日、平成27年度網走地区老人クラブ連合会・網走ブロック研修会が中央公民館で開催されました。網走、大空、美幌、清里、小清水、斜里、津別の各市町から342名が参加した研修会では、星屋好春津別町老人クラブ連合会会長の主催者挨拶や来賓の挨拶の後、講師・神田織音氏が「成年後見制度」について分かりやすく解説した講義を披露しました。昼食を摂った後、午後からは、演芸交流会も行われ、カラオケや踊りを通じて近隣の会員らが旧交を温めました。



まちのわだい

**大麻の抜き取りを実施
野生大麻ゼロ作戦!**

7月7日、津別町内に自生する大麻の抜き取り作業『野生大麻ゼロ作戦!』が実施され、津別ライオンズクラブ、北見保健所、役場などからの参加者が、千本あまりの大麻を抜き取り、埋め立て処分しました。

北見保健所管内には、多くの野生大麻が自生しており、大麻を悪用した犯罪が社会問題化していることなどから、毎年大きく生育する前のこの時期に行われているものです。



**津別産の食材を給食に
和牛肉寄贈と牛乳の提供**



▲左から津別町肉牛振興会・北野副会長、林教育長、津別町酪農振興会・大矢根会長

学校給食用に津別町肉牛振興会(迫田浩司会長)から津別町産黒毛和牛肉の寄贈が、津別町酪農振興会(大矢根会長)から津別町産牛乳「明治北海道の放牧牛乳」の提供があり、7月8日、林教育長に目録が贈られました。

子どもたちに地元の食材の素晴らしさを知ってもらうとともに、安心安全なものを提供したいという思いから毎年実施されているもので、牛肉の寄贈は40kg、週一回提供される牛乳は、通常より割高になる分との差額を酪農振興会が負担します。

地域おこし協力隊のいきいき日記

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

21 裸足

福士 大輔

幼い頃から父の影響で自然と触れ合うことが大好きでした。自然豊かな津別町から様々なことを発信していきたい。

夏が近づき裸足でいることが気持ちの良い季節となってきました。

私の場合は、ただ暑いから裸足になることが増えてきたのですが、先日面白い本を発見しました。

約80年前に出版された「パララギ」という本で、原始的な暮らしをしているサモア島の酋長が、現代社会を初めて目にした時の気持ちや様子を村の人に伝えた内容が書かれている本です。パララギとは酋長がつけた先進国の人々の呼び名です。

印象的な一節を紹介します。

「パララギは、足皮を日の出から日の入りまで履き続ける。たとえスコールのあとのように暑くても脱ぐことはない。これはい

かにも不自然なことだから、足はもう死にかけていて、いやな臭いがはじめている。実際、ヨーロッパの人の足は、もう物を掴むことも出来ず、ヤシの木にだつて登ることは出来ない。」

先進国の人々が履いている靴に焦点を当てた一節ですが、この素朴な意見に考えさせられます。

靴に頼って自分の足を忘れているよと、酋長は思ったのでしょうか。便利さによって、元々備えられている私達本来の機能が失われていつているのかもしれない。

自分の身体にもっと目を向けようと思った今年の夏は、自分の足の裏で色々な感触を味わってみようと思います。